

令和元年度（2019年度） 保育所の自己評価 評価結果

評価項目	評価結果	評価結果・具体的事例および改善方法
<p><b>保育の方針 1</b></p> <p>子どもが人格を形成していく上で、自己肯定感を持つようにすることが大切である。職員は、子どものあるがままを受け止め、自分の意思を自由に表現できるように保育の中で援助していく。</p>	72%	<p>保育士等は、たとえ周囲を困らせるような子どもの姿であっても、その行動を肯定的に捉えたとともに、気持ちを受け止めながら教育的な援助を実践し、自己肯定感の育成に努めていく。</p>
<p><b>保育の方針 2</b></p> <p>子どもが保育園生活をおくる上で必要なルールを知らせるとともに、人にはそれぞれ違いがあり、その違いを認め合うことを伝えていく。</p>	74%	<p>保育士等は、子どもが生活の主役であることを常に意識し、子どもが自分で考える間を大切にするとともに、援助の際には子どもが理解しやすいよう肯定的な表現を用いる。また、保育士等が互いを認め合う組織風土の構築に努めることをとおし、子どもが多様性を受け止めることができるよう努めていく。</p>
<p><b>保育の方針 3</b></p> <p>人の成長には豊かな経験が必要であり、特に乳幼児期においてはそれが実体験でなくてはならない。人的・物的な環境を整え、自然に集団となつてあそぶ中で様々な体験ができるようにしていく。</p>	71%	<p>知的好奇心や探求心などが育まれるよう、保育士等は、個々の子どもとその集団の興味関心を把握し、適切な環境を提供していく。このため、保育士等は、日々の自己評価に教育的環境の提供に関わる視点を取り入れ、質の向上に努めていく。</p>
<p><b>食育</b></p> <p>食事は子どもの身体的成長の基本であり、心豊かに食を楽しみながら自然の恵みに感謝し、子どもの命を守る大切な事項である。年齢にあった調理方法や栄養のバランスはもとより、食習慣の確立・栄養教育・心の健康づくりという目的に応じて一人ひとりの子どもに配慮する。</p>	82%	<p>保育士等は、個々の子どもの個性を共有し、それを尊重し、子どもが食べることを楽しめるような環境づくりに努めていく。また、保育士等は、保護者の不安を受け止めながら、家庭と協力し、より良い食習慣が確立するよう努めていく。</p>
<p><b>子育て支援</b></p> <p>子どもの健やかな育ちを保障するため、家庭との連携を深めるとともに、在園児保護者及び在宅の子育て家庭における養育力が向上するよう援助していく。</p>	73%	<p>保育士等は、在園児や地域の子育て家庭の保護者の思いに丁寧に向き合いながら、その気持ちや実情を受け止めた支援を行う。また、市が保有する社会資源についても必要に応じた情報の提供ができるよう、関係機関との連携に努めていく。</p>
<p><b>職員の資質向上</b></p> <p>保育者に求められる専門性や倫理観を高めるため、保育の質の確保に向けた取り組みを組織的に行う。</p>	64%	<p>園長は、子どもの最善の利益を保証できる職員集団の育成を目指し、外部研修への参加や園内研修を実施していく。また、参加した研修において最も共感できた点や日頃、模倣したいと思う同僚の保育について、職員間で共有し、保育の質の向上に努めていく。</p>
<p><b>安全管理と災害への備え</b></p> <p>日々、子どもたちの健康に留意するとともに、災害や事故に対する準備と心構えを持ち、それに係る訓練などを欠かさず、子どもの安心・安全を守る。</p>	75%	<p>保育士等は、子どもの健康や連絡事項が確実に共有できるよう文書での伝達を徹底する。また、朝礼や職員会議において、ヒヤリハット等を報告しあう時間を設けるとともに速やかに対応し、大切な子どもの命を守るよう努めていく。</p>